

October 20, 2021

**【前日の為替概況】ドル円、4日続伸 米長期金利が約5カ月ぶりの高水準**

19日のニューヨーク外国為替市場でドル円は4日続伸。終値は114.38円と前営業日NY終値（114.32円）と比べて6銭程度のドル高水準だった。米長期金利の指標である米10年債利回りが一時1.6443%前後と5月20日以来約5カ月ぶりの高水準を付けると円売り・ドル買いが優勢になった。ダウ平均が200ドル超上昇したことも相場の支援材料となり、アジア時間の高値114.35円を上抜けて一時114.40円まで値を上げた。

ユーロドルは5日続伸。終値は1.1633ドルと前営業日NY終値（1.1610ドル）と比べて0.0023ドル程度のユーロ高水準となった。欧州序盤に一時1.1669ドルと9月29日以来の高値を付けた影響が残ったものの、NY市場に限れば上値の重さが目立った。米長期金利の上昇に伴うユーロ売り・ドル買いが出たほか、ユーロポンドやユーロ豪ドルなどユーロクロスの下落につれた売りが出て1.1630ドル付近まで下押しした。

なお、ユーロポンドは0.8423ポンド、ユーロ豪ドルは1.5546豪ドル、ユーロNZドルは1.6230NZドルまで値を下げた。

ユーロ円は9日続伸。終値は133.06円と前営業日NY終値（132.73円）と比べて33銭程度のユーロ高水準。ただ、NY市場に限れば133.00円を挟んだ狭いレンジ取引に終始した。ドル円とユーロドルの値動きの影響を同時に受けたため、相場は大きな方向感が出なかった。

オセアニア通貨は堅調だった。米国株相場の上昇でリスクセンチメントに敏感な豪ドルやNZドルに買いが入った。豪ドル米ドルは一時本日高値となる0.7486米ドル、豪ドル円は85.54円まで値を上げたほか、NZドル米ドルは0.7172米ドル、NZドル円は81.96円と日通し高値を更新した。

代表的な暗号資産（仮想通貨）であるビットコインは対ドルで一時6万4342ドル台と4月14日以来約半年ぶりの高値を付けたほか、対円では735万円台と過去最高値を更新した。ビットコインの先物をベースとしたプロシエアーズのETF（上場投資信託）の取引が正式にニューヨーク証券取引所（NYSE）で開始されたことが好感された。

**【本日の東京為替見通し】ドル円は年初来高値、インフレ警戒の米金利上昇が支え**

本日の東京時間のドル円は、年初来高値を更新する展開。ここ数日のドル円の値動きを見ていると、東京時間は東京仲値までは買いが入り、仲値後は本邦実需勢をはじめとした売りが優勢で頭を抑えられる傾向にある。本日は5・10日（ゴト一日）ということもあり、東京仲値にかけては通常よりも大きなフローが予想され、仲値前後は神経質な動きになりそうだ。通常ならばこの数日と同じように、仲値後は上値が重くなるのだろうが、下押しの弱さをみると下値は限られそうだ。むしろ、下値の堅さを確かめると、15日につけた年初来高値114.46円や節目の114.50円を狙いにくい局面がありそうだ。

ドル円同様に下押しが限られているのが、原油先物価格だ。昨日のWTI原油先物11月限は一時81ドル後半まで値を下げたが、引けにかけては再び上昇し、4日続伸して引けている。英国、ユーロ圏、中国だけでなく様々な国でエネルギー不足が深刻になりつつあり、エネルギー価格の上昇によるインフレ懸念が高まっている。ただし、米国の戦略石油備蓄（SPR）の放出や、急遽石油輸出国機構（OPEC）プラスが増産などについての会合を決定すれば、一時的に価格の上昇が抑えられる可能性はある。その場合は相場が急転する可能性もあることで、SPR放出やOPECに関するヘッドラインには要注意となりそうだ。

他のリスク要因としては、あまり市場では大きく取り上げていないがパウエルFRB議長が最大500万ドル相当の株式を売却したことにより、再任されないリスクには注意を払いたい。また、中国恒大集団のデフォルト（債務不履行）リスクも常に要警戒となる。

ドル円以外では、東京時間は豪ドルとNZドルが市場を引っ張っていることに注目。原油高騰でコモディティ価格も大きく動いているが、豪ドルは資源国通貨なこともあり、最近取引額が上昇している。昨日も豪ドルは対ドルだけでなく、対ユーロや対円などのクロス取引でも大きく値を上げている。豪ドルは本日も東京時間では動きを先導する可能性もあり注目したい。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

## &lt;国内&gt;

○08:50 ◎ 9月貿易統計（通関ベース、予想：季節調整前 5192 億円の赤字、季節調整済 5864 億円の赤字）

## &lt;海外&gt;

○15:00 ◎ 9月英消費者物価指数（CPI、予想：前月比 0.4% / 前年比 3.2%）

○15:00 ◎ CPI コア指数（予想：前年比 3.0%）

○15:00 ◇ 9月英小売物価指数（RPI、予想：前月比 0.2% / 前年比 4.7%）

○15:00 ◇ 9月独生産者物価指数（PPI、予想：前月比 1.1%）

○16:00 ◎ ビルロウドガロー仏中銀総裁、講演

○16:20 ◎ エルダーソン欧州中央銀行（ECB）専務理事、講演

○17:00 ◇ 8月ユーロ圏経常収支（季節調整済 / 季節調整前）

○17:00 ◎ 9月南アフリカ CPI（予想：前月比 0.3% / 前年比 5.0%）

○18:00 ☆ 9月ユーロ圏消費者物価指数（HICP）改定値（予想：前年比 3.4%）

○18:00 ☆ 9月ユーロ圏 HICP コア改定値（予想：前年比 1.9%）

○20:00 ◇ MBA 住宅ローン申請指数

○21:30 ◎ 9月カナダ CPI（予想：前月比 0.1% / 前年比 4.3%）

○22:40 ◎ ホルツマン・オーストリア中銀総裁、講演

○23:30 ◇ EIA 週間在庫統計

○21日 00:20 ◎ ビスコ伊中銀総裁、講演

○21日 01:00 ◎ エバンズ米シカゴ連銀総裁、ポスティック米アトランタ連銀総裁、ブロード米セントルイス連銀総裁、カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁、イベントに参加

○21日 02:00 ◎ 米財務省、20年債入札

○21日 02:00 ◎ クオールズ米連邦準備理事会（FRB）理事、講演

○21日 03:00 ◎ 米地区連銀経済報告（ページブック）

21日

## &lt;国内&gt;

○08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

19日 05:30 イエレン米財務長官(議会指導部に書簡)  
「債務上限の長期的な解決策が必要不可欠」  
「米財務省は12月3日までに非常手段を使う必要」

19日 09:36 豪準備銀行(RBA)議事要旨  
「CPIが持続的に2-3%で推移するまで利上げはしない」  
「高度に支援的な金融環境をコミット」  
「中心的なシナリオでは10-12月期に成長に転じ、来年後半にはデルタ株流行前の水準を回復する」  
「賃金とCPIの上昇ペースは穏やかにとどまるだろう」

19日 15:54 ビルロワドガロー仏中銀総裁  
「来年利上げする理由はない」  
「インフレは来年末までに2%を下回ると確信」

19日 18:27 レーン・フィンランド中銀総裁  
「欧州には依然として経済の緩み余地がある」  
「ユーロ圏のインフレは依然としてほとんど一時的」  
「一時的なインフレであるという証拠は非常に説得力がある」

19日 23:49 レーン ECB 専務理事兼チーフ・エコノミスト  
「市場はECBのフォワードガイダンスを十分に理解していない可能性がある」

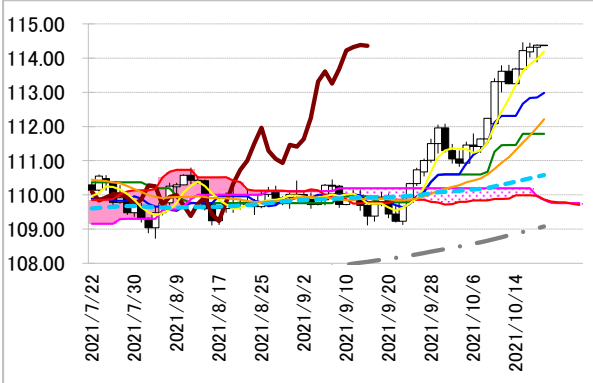
20日 02:29 ボウマン米連邦準備理事会(FRB)理事  
「労働者の喪失はパンデミック前の雇用水準に戻ること  
を短期的に困難、または不可能にする可能性がある」

20日 02:38 米ホワイトハウス  
「米国は引き続き北朝鮮と外交を行う用意がある」

20日 04:10 ウォラー米連邦準備理事会(FRB)理事  
「インフレが2022年にかけて2%を大幅に上回った場合、  
早期利上げを支持」  
「必要に応じて利上げを可能にするため、2022年半ばま  
でにテーパリングを終了することを支持」  
「11月の会合でテーパリングを開始すべき」  
「テーパリング完了直後の利上げを期待しないで欲しい。  
利上げにはまだしばらく時間がかかる」

※時間は日本時間

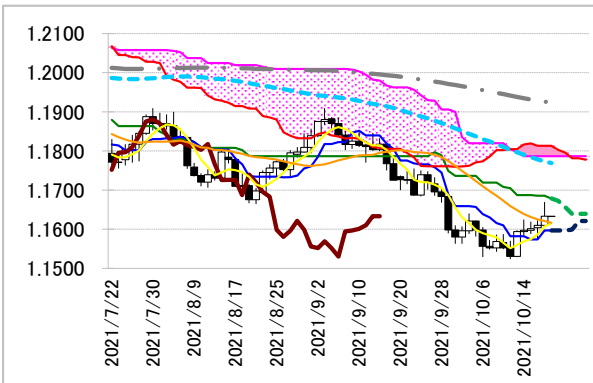
## 〔日足一目均衡表分析〕



### <ドル円=高値更新の流れ維持、2017/3 以来の 115 円視野>

下影小陽線引け。一時 113.88 円まで下押したものの、114 円割れ水準で上昇中の短期 5 日移動平均線付近で下げ渋った。13 日高値 113.80 円を割り込んでおらず、強い上昇波形を維持している。本日早朝には 15 日につけた 2018 年 10 月 4 日以来の水準 114.46 円を抜けてきており、高値更新の流れが継続。15-19 日の反落幅の倍返し 115.04 円も位置する 2017 年 3 月以来の 115 円乗せが視野に入ってきた。

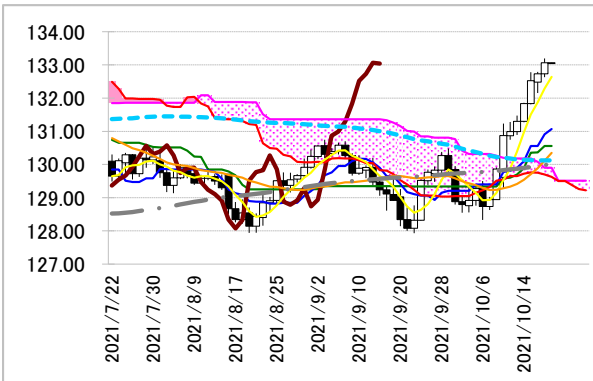
レジスタンス 2	115.51 (2017/3/10 高値)
レジスタンス 1	115.04 (10/15-19 下落幅の倍返し)
前日終値	114.38
サポート 1	113.88 (10/19 安値)



### <ユーロドル=基準・転換線が交差する水準への収れん想定>

上影小陽線引け。一時 1.1669 ドル と 9 月 29 日以来、約 3 週間ぶりの水準まで戻したものの、1.1680 ドル付近で低下傾向の一目均衡表・基準線に届かなかった。1.1620 ドル付近で低下中の 21 日移動平均線付近へ近づくと押し戻されている。上昇が予想される一目・転換線 1.1597 ドル付近では底堅さを示すと考えられ、当面は同線と基準線に挟まれたレンジ中心で推移か。両線の交差が予想される 1.1630 ドル台付近へ収れんする展開が想定できる。

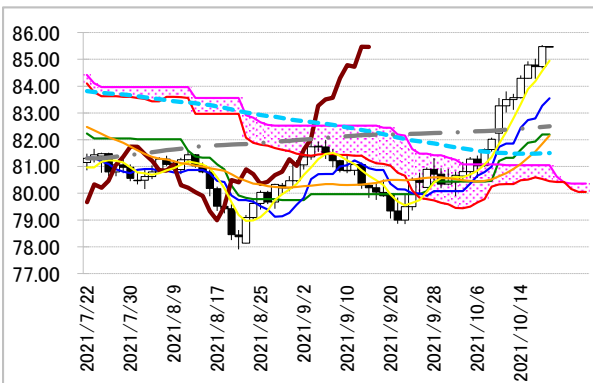
レジスタンス 1	1.1678 (日足一目均衡表・基準線)
前日終値	1.1633
サポート 1	1.1572 (10/18 安値)



### <ユーロ円=調整が入っても軽微にとどめ高値狙う展開期待>

陽線引け。一時 6 月 16 日以来、約 4 カ月ぶりの 133 円台乗せとなった。次の上値の節目 6 月 15 日高値 133.68 円や、同水準を抜けた上昇の勢いで同 1 日につけた年初来高値 134.13 円を狙いにいく流れにある。高値圏での調整の下押しが入っても昨日安値 132.63 円や、同水準付近で上昇中の 5 日移動平均線付近にとどめ、高値更新を早期に実現することが期待できる。

レジスタンス 1	133.68 (6/15 高値)
前日終値	133.06
サポート 1	132.63 (10/19 安値)



### <豪ドル円=年初来高値を更新して 86 円台うかがう局面へ>

陽線引け。85 円台で、5 月 10 日つけた年初来高値 85.80 円の更新を狙う状況となっている。85 円付近で上昇中の 5 日移動平均線を上回る水準を維持したまま、レンジを切り上げる強い展開が続きそうだ。2018 年 2 月以来の水準 86 円付近をうかがう局面に差し掛かってきた。

レジスタンス 1	85.99 (2018/2/8 高値)
前日終値	85.48
サポート 1	84.95 (5 日移動平均線)

